



茶后書也

廿五

7多9
674
21
25



千宗九卷代
堀内宗心
千家茶道傳授卷



○何れもその層を向うと
○白物送物と九と向う

一 自在竹下より寸法遠方より七ツ又九ツ

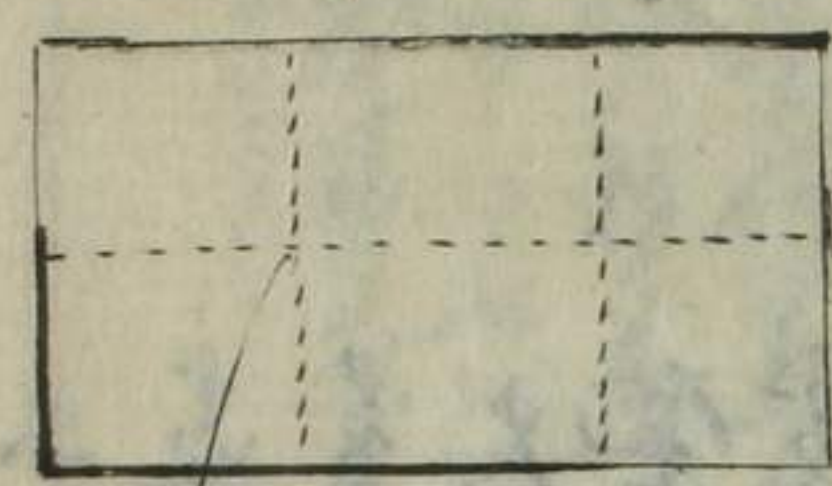
床敷物行の上より縁より打付更あり右に原更 此州縁より
床敷物行の上より縁より打付更あり右に原更 此州縁より
打付の風採りて敷物為忠ありては遠方へ勝物より高り
此打の包

但右層の必要なし

一 物室に敷地は向いてたより魚の如く打て上中層も床の
差別あり

○但神樂方より右壁より打てて打
○燈籠は何色もよく様々あり向う

床天井



大中の筋より布を二ト出ー打

一 床より濃きと点り

大下より床入りし海角扱

中下より一丁解懸ーては上より二丁扱

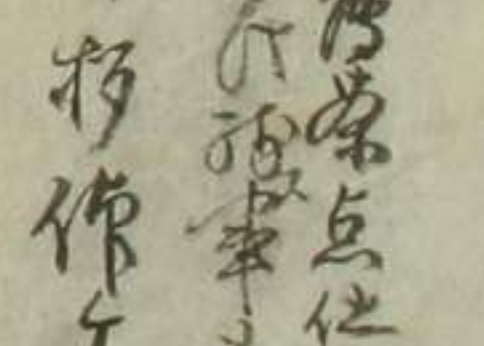
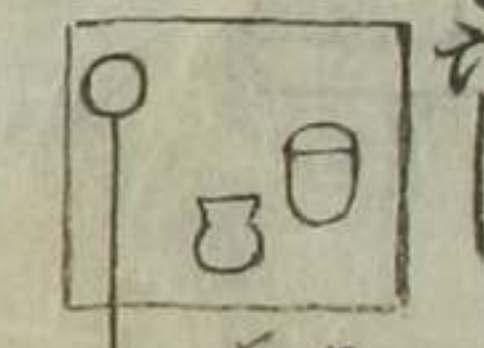
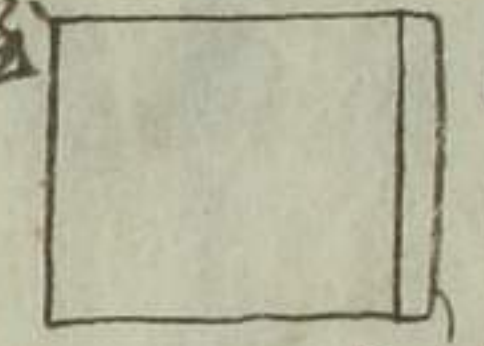
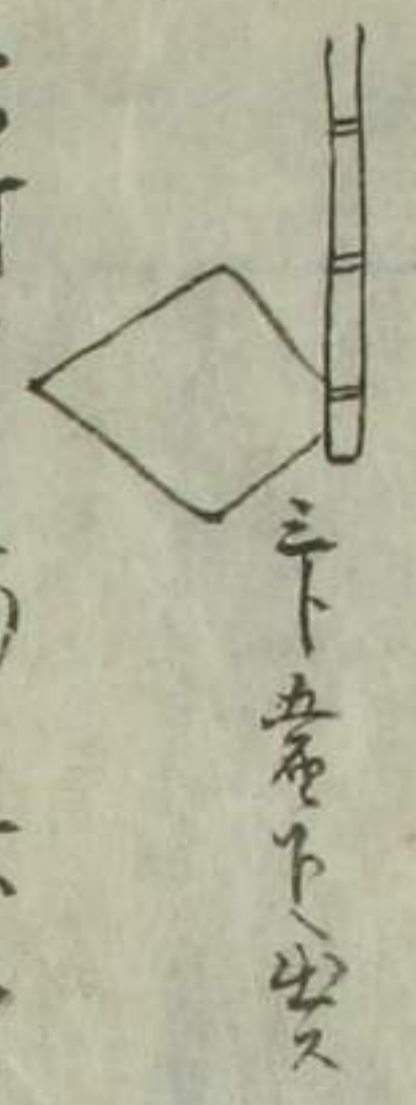
小の物より上より扱

但大床より巾包より扱りて同扱りて巾包より扱
巾包より扱りて大床より扱りて巾包より扱

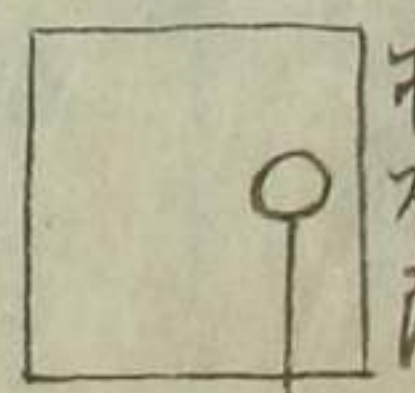
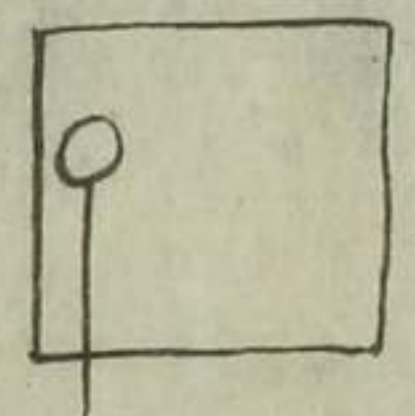
一 神長と床出尻より一丁扱

一 釣柳す法と事

一 二寸綱
 二寸綱を以て七寸 柳枝 巾を以て三寸 津守を以て五寸 柳葉を以て



右行石の差角 二寸を以て
 二寸綱を以て七寸を以て



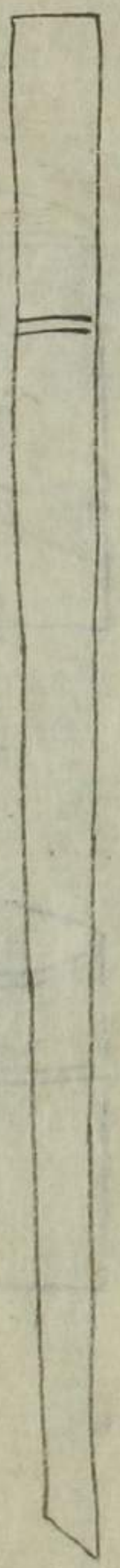
柳葉の重

為宗点位は為宗者
 二寸綱を以て七寸を以て

一 柳葉の重は為宗者の長短の寸を以て
 一 為宗の長短の寸を以て柳葉の重は為宗者の長短の寸を以て
 一 見るとは 柳葉の重は為宗者の長短の寸を以て
 一 柳葉の重は為宗者の長短の寸を以て

一 唐草す法と事

二寸



唐草

一 葉果す法と事



葉果す

一 葉果す法と事
 一 葉果す法と事
 一 葉果す法と事
 一 葉果す法と事

一 本丸形

煙中並ぬ

宗旦好

但し酒の一斗はあり
生かすに好むもの

一 冬は痛
一 冬は素
一 大塗籠

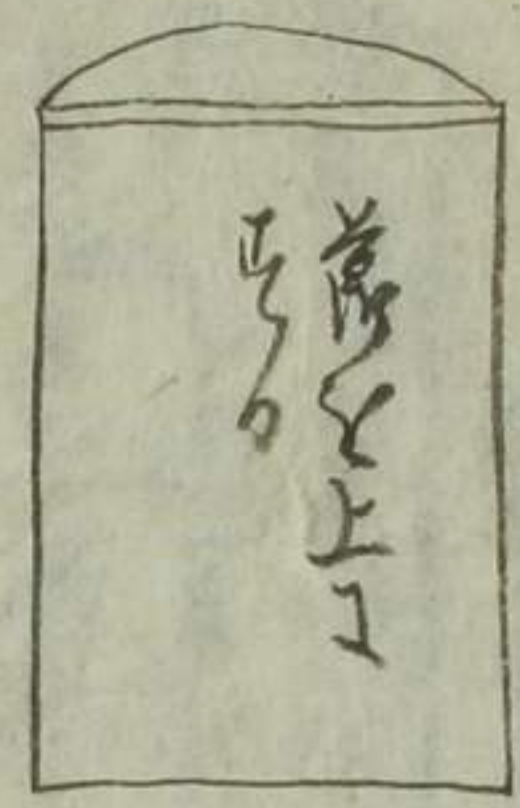
宗旦好
玉丸好
只好
一 冬は素
一 冬は痛

玉丸好
宗旦好

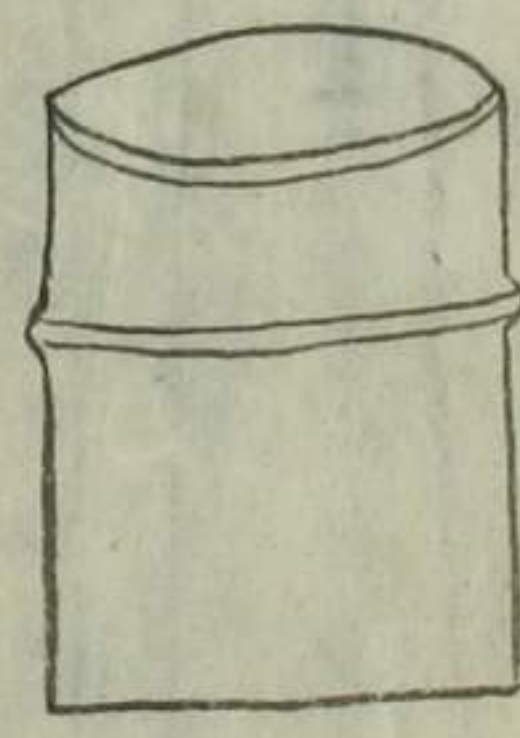
一 蓋をす法

但冬は竹冬に籠竹メノある柄の籠をいふなり

夏



冬



一 居候す法

長中ノ下ト一斗九サトウ迄
太キ方

孝陽出方

皆籠上水ナク奉
水と云ふは籠の中
籠に控へ入
籠の中は水と
籠の中は水と
籠の中は水と

一 文字籠

おまか子目
一 丸籠

おまか子目
丸籠

一 去野籠

おまか子目

一 上り籠

丸籠

一 朱丸籠

おまか子目

一 朱丸籠

ムリウ
吸物籠

コウホ

可く浪巻く格に蓋を布一袂分着候所出
 包く候蓋の袖異く何と九寸指し
 紐と云ふは袖の口は蓋にて上し
 二座は二座礼して若くは子
 巾片を床の上又柳物勝方
 中へ着て蓋の布を風炸の中へ着
 今中へ何風呂の中蓋あり
 風炸先き風呂に事す
 高サ動人思ふ

右の白浪ありは浪源屋所用なり
 物又をある

右の浪源也市地源は格とあり

一 風呂の板丸板丸流珠風呂
 風呂に蓋を竹物切板切し切也

中へ蓋を敷く法をす八ト
 板切板切す法も此也



五種の蓋を火を垂す所の蓋
 巾片を床の上又柳物勝方
 巾片を床の上又柳物勝方
 巾片を床の上又柳物勝方
 巾片を床の上又柳物勝方

此の蓋の意也

一 此の蓋の意は蓋の意に向へて扱ひ又一人の環
竹の方へ人形はさる也物扱の意は人形は積まざる
方州の二人形常解れ方と布とさる也

一 竹柄は蓋の意は樂なり見蓋の意は切蓋の意なり
舎釈也

一 後で茶中れた時茶の箱扱先は茶扱と東の上の蓋
茶扱と出さし茶中は出さし由は後で茶扱
蓋の意は又茶の意は湯の海茶扱と入る
茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る
茶扱の意は茶扱と出さし由は後で茶扱と入る
後で茶扱の意は茶扱と出さし由は後で茶扱と入る
茶扱の意は茶扱と出さし由は後で茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

一 茶中と後で茶扱の意は湯の海茶扱と入る

學家其意一と遺の物事(後)一は是と市の遺

一 免用呂老子風呂と今ハ懐と下サスハ炭と一

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

中ノ外ハ何程ニ程ニ河代游物ノ事ハ先ノ事ハ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

一 免用呂濃茶点市代時ハ月ハ三ノ年ニ箱ハ物カ

右文化七年九月十九日卒業

紫雲堂傳書

Handwritten text, possibly a title or header, located at the top of the right page.

Handwritten text, possibly a date or signature, located in the lower right quadrant of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

